

〔紹介〕

Journal of Historical Geography の創刊

London の Academic Press から、一九七五年一月に Journal of Historical Geography の創刊号が出版された。オックスフォードの John Patten ウィスコンシン大学 の Andrew Clark との英米の各編集主任を置き、他に書評専門編集者も加えて一五名の編集員があり、彼等の所属国はアメリカ合衆国五、イングランド四、カナダ二、北アイルランド・オーストラリア・スウェーデン・西ドイツ各一ときわめて国際的な構成である。B五判の季刊誌で、一・四・七・一〇の各月に刊行され、三号までのページ数三二六、論文一四編の他に書評・新刊紹介が多く納められている。海外での年間予約購読料は£八・四〇で、紀伊国屋書店扱いでは八、一四〇円。

創刊号の巻頭言によれば、歴史地理学の研究者が増加し、その業績が多く発表されるようになったが、その専門誌が無かったため、地理学・歴史学その他の関係諸学の雑誌に分散していたことから、ここに歴史地理学の研究分野における発達を反映させるものとして、その専門誌を創刊するに至ったとしている。と同時に、世界各地の諸大学に歴史地理学のコースやセミナーの増設、研究活動の進展にも役立つことをも意図するものである。

そこで、同誌は歴史地理学の本質や、地理学や歴史学の分野との関係などにおいても、特定のドグマをもつものではないことを強調し、過去における地理的事実に関係ある発言であれば、地理学以外

のどの学科出身の研究者でも歓迎するとしている。また、あらゆる地理学的研究において、長短の差はあれ時代に関与し、多少とも必然的に時の変化に関係させられるものであるから、その面でもひろく地理学全体についても貢献しうるものとしている。

同誌は世界のいかなる地域における、いかなるスケールの研究についても、歴史地理学に関する業績に対して紙面を提供し、また歴史地理学とは何か、どのように研究すべきかという本質論また方法論についての論議も特に歓迎すると述べている。投稿論文は英文に限り、八、〇〇〇語以内、詳細な投稿規程は創刊号と三号に掲載されている。

以下、紹介をはずれて個人的感想になるが、巻頭言の中に、従来は英語によるものもとより、いかなる言語による歴史地理学関係の定期刊行誌はなかったと述べているのである。七六年の歴史をもつ日本歴史地理学会の『歴史地理』は地理的歴史として別にするとしても、歴史地理学会の一七巻に及ぶ『歴史地理学紀要』(The Historical Geographic Review) の存在が知られていないのは、国際語でない日本語の悲哀を感じる。

しかし、一方わが国では歴史地理学の独自の発達があることは自負すべきで、来る一九八〇年度の国際地理学連合(IGU)第一五回総会は日本に招致される機運にあり、その際には歴史地理学も一分科としてとりあげられる可能性も強いことを考えれば、わが国の歴史地理学においても、速かに鎖国状態を脱して、国際化をはからなければならぬであろう。そのためには、紀要や会報の欧文レジュームの充実が望まれるが、それだけでなく、日本における歴史地理

学隆盛の状況を伝える、例えば代表的論文の欧訳など考慮できないものであろうか。(木下良)

寄贈文献〔()内は本会会員の執筆によるもの〕

○ "Annal Report of the Institute of Geoscience the University of Tsukuba" 筑波大学地球科学系研究室

○ 中林保「古代美作国の郡家と交通路」(「人文地理」二七巻四号別刷)

○ 千田稔「ミヤケの地理的実体―畿内とその周辺における立地と地割の問題―」(「史林」五八巻四号別刷)

○ 「郷土神奈川」五号 神奈川県立文化資料館(渡辺和敏「近世における津久井地方の関所と番所」)

○ 岡本兼佳「明治期における『郡』の地理学的検討」(立正大学「文学部論叢」五三号別刷)

○ 大越勝秋「和泉市における宮座」②(「阪南論叢」一一巻一号別刷)

○ 「地理」二〇巻一一号 古今書院(織田武雄「吉野原から桜島を望む」、谷岡武雄「ヴェローナ」、浮田典良「天理市」)

○ 「東北学院大学東北文化研究所紀要」六号東北学院大学東北文化研究所(宮川善造「奥羽山脈南部の自然と開発」、長井政太郎「米沢盆地南西部の交通路」)

○ 加藤武夫「陶都瀬戸」(「地理」二〇巻九号別刷)

○ 「地方史研究」一三八号 地方史研究協議会(中林保「因幡国

気多郡の条理と郡家―歴史地理学的試論―)、佐藤利夫「佐渡海府の新田開発と集落構造」)

○ 「水利科学」一〇六号 水利科学研究所

○ 「地理」二〇巻一二号 古今書院(籠瀬良明「四つの巴川」、井出策夫「女川町」)

会員名簿の訂正

三頁、下段、一二行目、小俣利男(北豊島工業高校)

三頁、上段、一五行目、大塚一雄

四頁、上段、七行目、梶川勇作(金城学院大)

四頁、上段、一六行目、加藤由隆(秩父東高校)

四頁、下段、一三行目、木口勝弘(福島女子高校)

五頁、上段、二一行目、小島清孝(東京堂出版)

五頁、下段、一〇行目、権田雅幸

五頁、上段、一二行目、倉田康夫(中京大)

六頁、上段、氏名欄の線

七頁、下段、一一行目、立石友男

九頁、上段、一九行目、芳賀登(筑波大)